

福島大学は、明治初期にさかのぼる古い歴史、地域の経済や教育を支えてきた伝統、震災以降の復興・地域再生でのめざましい貢献がありながら、それを紹介する博物館も資料館也没有。

福島大学は、1874年開校の福島師範学校講習所・1921年開校の福島高等商業学校に端を発し、福島経済専門学校・福島師範学校・福島青年師範学校として明治時代以降の福島の経済や教育を支えてきました。

戦後の教育改革の中で、福島大学は新制大学として発足し、地域社会とともに教育・研究・社会貢献を積み重ねてきました。

特に東日本大震災以降は、復興・地域再生に取り組む知的拠点として、多くの学生、教職員、地域の皆さまとともに新たな知と実践を育んできました。

その長い歩みの中で蓄積されたアーカイブズ（資料・記録）や研究成果は、福島大学だけでなく、地域の歴史や復興の歩みを伝える貴重な財産でもあります。

しかし現在、それらの多くは学内に分散して保管され、十分な保存・活用環境が整っているとは言えません。
また、福島大学の歴史・伝統や今を伝える展示也没有。

福島大学が地域とともに明治時代以降に育んできた知と記憶は、未来へ受け継ぐべき大切な共有財産です。

資料館は、過去を振り返るだけの場所ではなく、
新たな学びや対話を生み出し、
大学と地域をつなぐ交流の場としての役割も担います。

こうした知的資産を適切に保存し、教育・研究・地域連携に生かしながら次世代へ継承するため、資料を体系的に整理・公開し、必要に応じて収集していく拠点が求められています。

本プロジェクトで取り組むこと

- ・ 福島大学の歴史・伝統や今を伝える展示機能の整備
- ・ 自然史や歴史・民俗など大学の地域研究上貴重な資料の収集、保存、デジタル化
- ・ 福島大学が保持している大学アーカイブズや歴史的研究成果の保存体制の確立
- ・ 学生や地域と協働・交流する展示や教育プログラムの展開
- ・ 地域の自然・文化や震災復興の歩みを広く発信する企画の実施

福島大学にも
資料館が欲しい。